

しまむら(8227)



－ 上期下振れで下期は高い目標設定に －

28日発表のしまむらの中間決算は前年同期比で5%近い増収を確保し、計画をほぼ達成しました。しかし、営業利益は前年同期比で13%近い増益を見込んでいた計画を大きく下回って6%を上回る減益となりました。このように売り上げが計画通りとなりながら、営業利益が計画に届かなかったのは粗利益率が悪化したためで、業績の足を大きく引っ張りました。

その粗利益率はこの中間期で31.4%と前年の中間期の32.1%を0.7ポイント下回り、計画の32.9%に1.5ポイント届きませんでした。これは雨や低気温で過剰となった在庫を消化するために6月と7月に値下げを行ったためで、販売管理費は計画内に抑えられコントロールされていることから、営業利益の下振れはこの粗利益率の悪化によるものだといえます。

しまむらでは上期の利益が下振れたにも関わらず、下期の回復を見込んで通期の業績予想を据え置きました。その結果、下期は高い目標設定となっています。売上高が計画通りに着地するとして、下期の粗利益率は34.3%という水準が必要となりますが、ここ数年のしまむらの下期の粗利益率や上期の実績と比較して高い水準だといえます。しまむらの下期の粗利益率は2015年2月期が31.4%、2014年2月期が32.1%、2013年2月期が32.9%となっています。

商品単価の引き上げが上手くいけば粗利益率のある程度の改善は期待できますが、それでも下期の粗利益率の計画が高い水準であることに変わりがなく、計画達成には売上高の大幅な上振れが必要となりそうです。また、営業利益でも下期の計画はとて高くみえます。下期の営業利益は前下期比で6割近い大幅増益予想となっています。通期の計画達成のハードルは低くないといえそうです。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会